

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 17 年 3 月 3 日 (2005.3.3)

【公開番号】特開 2001-165539 (P2001-165539A)  
 【公開日】平成 13 年 6 月 22 日 (2001.6.22)  
 【出願番号】特願 平 11-348569  
 【国際特許分類第 7 版】  
     F 2 5 C      1/10  
 【F I】  
     F 2 5 C      1/10      3 0 2 D

【手続補正書】  
 【提出日】平成 16 年 3 月 29 日 (2004.3.29)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 3  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 0 3】

図 1 3 に示したように、特開平 1 0 - 7 8 2 7 7 号公報記載の自動製氷装置は、モータ 1 0 1 の回転力をウォーム 1 0 2 は、はす歯歯車 1 0 3 及び伝達歯車 1 0 4 からなる回転伝達機構で減速してカム歯車 1 0 5 へ伝達するようになっている。なお、これらの各部材は、2 つに分割されたケースの一方向の所定位置に配置され、ケースの他方を被せることによりケース内に収まっている。そして、カム歯車 1 0 5 の回転中心に連結された製氷皿（図示省略）をモータ 1 0 1 の駆動力によって回転駆動する。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 5  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 0 5】

すなわち、検氷軸 1 0 6 には、フック 1 0 6 a が設けられており、この係止部 1 0 6 a に引っ張りコイルバネ 1 0 7 の一端に形成された係止部 1 0 7 a が引っ掛けられている。そして、この引っ張りコイルバネ 1 0 7 の他端には、係止部 1 0 7 b が形成されており、この係止部 1 0 7 b がケース内に形成された係止ピン 1 0 8 に引っ掛けられている。このため、上述したように検氷軸 1 0 6 が、フック 1 0 6 a と係止ピン 1 0 8 との間に発生する引っ張りコイルバネ 1 0 7 の引っ張り方向への付勢力によって、図 1 3 において矢示 X 1 方向に引っ張られ、突起がカム歯車 1 0 5 のカム面に押しつけられる。その結果、そのバネ力に抗してカム面で検氷軸 1 0 6 を案内することにより、検氷軸 1 0 6 がカム歯車 1 0 5 の回動角度に応じて回動するようになっている。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 5 4  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 5 4】

また、検氷軸 3 1 は、このときの圧縮コイルバネ 3 2 の付勢力を受けることにより、若干、図 9 において矢示 Y 2 方向へ戻ろうとする。しかしながら、このとき、検氷軸 3 1 は、バネ係合部 3 1 c に形成された突起 3 1 j がスリット 9 f に形成され突出部 9 g に引っ掛

かかるため、スラスト方向（図 9 において矢示 Y 2 方向）への移動を阻止される。このため、検氷軸 3 1 は、バネボックス 5 2 内で圧縮コイルバネ 3 2 を圧縮させた状態で仮保持される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 9】

